

をこの度計上した。

答 町長 施政方針でも申しあげたが、新適時適育事業により「子育てがっこう」を立ち上げ、親育ちも図る考えだが、木育では金山の材で、しかも無垢で支給との強い思いもあり、無垢での支給として、9〜10ヶ月検診時に贈呈するのが適時と考えている。

その他の質問

- 流雪溝整備の方向
- 子ども園新築の件
- 診療所経営の件

診療所経営での町民意向調査を

須藤 典夫 委員

問 診療所の運営について補正予算の際にも医師の確保や経営状況



新しくなった子育て支援センター（旧トレーニングセンター）

について説明された。町長は町民の意向、議会の意向を聞いていきたいとのことだったが、どのように町民の声を聞くのか。私としては収支状況を示し、医師確保の困難性、派遣先の相手方の問題等を整理しての意向調査をすべきと考えるがどうか。

答 町長 意向調査を行うかどうかは検討させていただきたい。救急医療体制等に関して



診療所の救急体制は



チーム道草学習支援

「適時適育」での人材育成について

小野 寺賢一 委員

問 大変立派な説明要旨や昭和時代の右肩上がりの中でも40億円を超える予算自体はなかったように思う。認定こども園への予算など人材育成に注目をしている。今後も「適時適育」を基本に新教育長と町長連携を図って進

hyperIQ アンケートについて

岸 綾子 委員

で変わらないものであると感じている。それが「新適時適育」という改善を加えながら基本と教育は人なりというところで人材育成を図り、家庭教育、生涯教育を先進的に進めていく考えである。また、クロスカントリーは町

問 不登校対策のアンケート（hyperIQ）の実施についてだが、いじめ問題は川

と考えていて、学校毎の早期対応や特別教育支援員を活かしながら、現状より良い方向への学級づくりを進めていきたい。

その他の質問

- 地域おこし協力隊の現状と今後
- クロカン強化対策について

地方創生事業と旧中田小活用は

栗田 保則 委員

答 教育長 当アンケートは学級の間関係が分かるような質問形式のものになっていて、これによりクラスの間関係がわかる。来年度は2回実施することにし、山大的松崎教授を招き、研修会を行う予定である。現在の生徒間の状況は良好であ

問 平成25年度より実施してきた「域学連携事業」により、旧中田小の活用について貴重な意見を頂いた。現在中田地域の若者が地域を元気にしたいと4月1日からNPO法人中田倶楽部設立を目指し、準備を進めているところである。これらへの支援について地方創生事業に係る補助金があるとき聞くがどうい



活用が期待される中田小学校

答 町長 旧中田小の有効活用について様々な提案がなされてきた。若い方々がNPOを立ち上げるといふ力を借りて地域住民生活等緊急支援交付金地域創生先行型を活用し、管理経費への支援を計画している。具体的には廃校利活用支援事業として、学校管理経費で250万円、別枠としてNPOに対する支援として「NPO中田倶楽部」

へ50万円、合わせて300万円の補助を予定している。また、地域おこし協力隊の1人が中田地域に住みたい意向もあり、地域の元気になれば素晴らしいことである。

その他の質問

- 貸工場事業の進捗状況は
- 流雪溝整備の促進を
- クロカン同様にアルペンへの助成を



金山中入学式

答 教育長 「適時適育」というのが金山中学校で教頭をされた元教育長大山弘氏が提唱したと聞いており、ひとつの理念を貫いてきた町の教育は委員がおっしゃられた流れの中

● 除雪問題への対応